

特別展

阿波の万葉集

詠み人しらずは今と変わらさず

2025年

1

18

saturday

～

2

16

sunday



前の江川へ出てみれば

花の残が流れゆく

花吹きさらすむ

うぐいすよ うぐいすよ

（神踊り歌「塩波踊」）



会場 徳島県立阿波十部兵衛屋敷

徳島市川内町宮島本浦184

Tel.088-665-2202 Fax.088-665-3683

入場料 一般410円、高・大310円、小・中200円

主催 阿波民俗芸能文化保存会、徳島県立阿波十部兵衛屋敷

協力 (一社)神山アーカイブレコード 小松崎剛

阿波徳島の言葉

阿波にはまだ埋もれた美しいものがたくさん秘められています。
これを阿波の人間が掘り出さなくて誰がするというのでしょうか。



榎垣司 (1923-1996)

400年以上前に遡る言葉が、徳島の民謡やお祭りには残されています。高度成長期に忘れられようとしたそれらの言葉を、榎垣司は生きた言葉として調査・採集しました。その記録ノートは数十冊に及びます。同時に採集した音源・写真のデジタル化と共に、今後さらにデジタル化を進めることにより、立体的に徳島の生きた歴史が見えてきます。資料を正確に残すことは、少子高齢化により限界集落、消滅集落の危機を迎えている地域の唯一無二の歴史を残すことであり、復活への道筋を見せる事でもあります。

また世界中のどこを探してもない地域の文化は、国内のみならず海外の人と交流するためにも必要不可欠で、次世代の人が誇りを持つ一助になります。

デジタル化することにより大動脈の阿波踊りや人形浄瑠璃と共に、地域の毛細血管のような文化を紹介することができ、関西万博はじめ世界の人に、現地へ足を運ぶきっかけになれば幸いです。

展示内容 取材ノートや生原稿などの貴重な資料とデジタル化したものを展示。原本の文字からは生きてきた人の体温が感じられることと思います。今までにデジタル化した写真や音源も展示いたします。

絵画展示 一見わかりづらい民謡や歌の中から、今と変わらない人の思いや息遣いが聞こえてきます。それらを金子都美絵がすくいあげ、画で表します。

●関連事業

阿波の万葉集より踊り歌や民謡を書で体験

民謡や祭りの歌を書で体験してもらいます。歌われていた時代が400年以上前であっても、今の自分たちと変わらない心情であることなど、文字を書くという体験を通してより身近に感じていただきたいと思います。

- ・2月15日(土) 16:00~17:00
- ・講師：書道家・安田有吾
- ・受講料：3,000円
- ・定員：30名(要予約・先着順)

お申込・お問合せ／徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

Tel.088-665-2202 Fax.088-665-3683

awajurobeyashiki@mf.pikara.ne.jp

十一才の少年と、九才の少女が淡い恋心を抱いていて、桜の花の下で逢おうと約束していたのであろう。二人の上に花びらが降りかかっている。画にも、袖にもその花が雪のように見えることよ。



粟門市・里浦 神踊り歌・恋の踊り

前の江川へ

解説：榎垣司、画：金子都美絵

表の歌

徳島市・上八万、一名
神踊り歌

春の日、水の上には、散った花びらが筏をくんで流れてくる。一とつらなり、また一とつ。川辺に遊ぶうぐいすたちよ、あまりはしゃいで、花を散らせないようにしてくれ。